

幹事長日誌 (平成19年1月1日～12月31日)

鎌田英明

平成19年

- 元旦 : 晴れ
新しい年の幕開け、年々「正月らしさ」がなくなって来ている。さびしいが、これも時代の流れか。ともかく神皮もまた新しい年の幕開け、さらに飛躍すべくエンジン始動！
- 1月11日(木) : 晴れ、於/ホテルキャメロットジャパン
編集委員会。
「神皮」14号のゲラがあがり、最終の打ち合わせ。40周年記念号の意味合いもあり、盛り沢山の内容。40周年記念式典も上手にまとめられており、良い記念になると思われる。
- 1月18日(木) : 晴れ、於/ホテルキャメロットジャパン
第2回神奈川フットケア研究会。
「糖尿病フットケアとチーム医療」昭和大藤が丘病院 末木博彦教授
「爪白癬は外用療法でも治る！」横浜市大 中嶋 弘名誉教授
の2演題。コメディカルも含め、149名の参加。在宅研究会と2本柱となってきたことが分かる。
当日のアンケートを見ると、コメディカルの参加者は理論もさることながら、実際的な話を求めていることが伺える。さらにこの講演会を発展させるには、より実践に即した内容も取り入れていくことが必要か。
- 1月20日(土) : 晴れ、於/横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
常任幹事会。
123回例会をはじめ種々の問題について、意見を交わす。
- 1月25日(木) : 晴れ、於/横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
女医支援システム立ち上げ準備会。
休職中の眠れる皮膚科女性医師を掘り起こし、女医を求める医療機関に紹介するというアイデアが出され、増田智栄子、村上富美子、野村有子先生たちと話し合う。いつもながら野村パワーには圧倒されるが、軌道に乗れば面白いシステムである。
- 1月31日(木) : 晴れ、於/横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
IT委員会。
神皮でも治験ネットワークを立ち上げて、いつでも治験応需可のシステムを作る方針で方向付けがなされた(増田副幹事長)。
- 2月5日～10日 : 第8回皮膚病サーベイランス施行
向井秀樹先生、高須 博先生いつもながらご苦労様です。
- 2月10日(土) : 曇り
神奈川県医師会理事と懇談。医会にとって有意義な情報交換ができた。
- 2月18日(日) : 雨、於/京王プラザホテル
第70回日本皮膚科学会東京支部総会。

「皮膚科医の社会貢献」とのテーマで、栗原誠一会長、岩井雅彦先生、宋 寅傑幹事が、在宅医療、学校保健、産業医問題に如何に皮膚科医が参画していけるかについてのシンポジウムに参加し、活発な討論を行なった。

- 2月22日（木）：曇り、於／新横浜国際ホテル
学術・サーベイランス委員会。
新委員青木見佳子先生から、パジェット病に関する女性ならではの貴重なご意見が出され、今後の委員会の活動の1つのヒントになった。
- 2月24日（土）：晴れ、於／グランドインターコンチネンタルホテル
第2回女医支援システム立ち上げ準備会。
更に具体的な内容の詰めが行われ、どの程度のニーズがあるかアンケートを実施することが決まった。
- 2月26日（月）：遅ればせながら、1月分研修報告を県医師会高橋様に送付。
- 2月28日（水）：晴れ、於／ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
健保委員会。
保険審査では、とかく目の敵にされる審査員だが、なんとか会員の先生方にも分かりやすい審査を目指して議論白熱、気がついたら2時間以上も討論していました。
- 3月2日（金）：曇り、於／神奈川県総合医療会館
神奈川県医師会 平成18年度 高度医療に関する懇談会。
門外漢ではありますが、生体肝移植のお話を聞いてまいりました。
- 3月4日（日）：快晴、於／ホテルキャメロットジャパン（共催：マルホ）
第123回神奈川県皮膚科医会例会。
「皮膚科診療に役立つダーモスコピーの知識」東京女子医科大学 田中 勝助教授
「骨髄間葉系細胞を利用した難治性皮膚疾患治療法の開発」大阪大学 玉井克人助教授
ミニレクチャー「産業医と皮膚科」産業医委員会副委員長 宋 寅傑先生
もう4月頃を思わせる行楽日和の中、今回も151名の参加で盛況のうちに会を終えることができた。当初「やらず嫌い、聞かず嫌い……」というテーマ名にどうなることかと思われたが、さすが高橋泰英先生の綿密に練られた構想に一同感動しきりであった。
- 3月5日（月）：今回は、忘れぬうちに県医師会へ研修報告。
- 3月6日（火）：晴れ
例会時より体調不良だったが、インフルエンザAに罹患判明。ダウン。
- 3月8日（木）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急
企画委員会。
インフルエンザで欠席。会長、副幹事長からの連絡によると、いつもながらの活発な議論が交わされた様子。ただ、担当幹事の講師依頼に勇み足が見られるとのことで、再度「例会のしおり」を渡すことになった。
- 3月10日（土）：快晴（春の陽気）
県医師会・広報、布川様に「分科会だより」メール添付で送る。
- 3月11日（日）：雨、於／横浜エクセルホテル東急
雑誌「皮膚病診療」座談会。
増田智栄子、野村有子、川口博史、袋秀平先生たちと5人で、神皮の昨日、今日、明日を語り合う。将来を見据え、若い人にどしどし加入してもらえる会にしていかねばという結論。増田先生はこの日もお着物姿で参加。出来上がりの写真が楽しみです。

- 3月12日（月）：川口編集委員長より「神皮14号」に落丁（写真印刷漏れ）が発見されたとの一報あり。
- 3月16日（金）：向井常任幹事の東邦大学大橋病院皮膚科教授就任が正式に決定された。おめでとうございます。神皮も後任人事を考えなくては。
- 3月20日（火）：神皮落丁問題は2冊で収束の様子。大事に至らず安心する。
- 4月9日（月）：常任幹事に平成18年度事業報告、平成19年度事業計画の最終確認メール。
- 4月16日（月）：雨、於／京王プラザホテル
日本臨床皮膚科医会加藤友衛会長の古希お祝いの会。
 栗原会長、宮川、浅井常任幹事。畑 康樹、原 尚道幹事とともに参加。
 同時に開催の武見敬三参議院議員の講演が午後8時からあり、その後行なわれた古希の祝宴もおおいに盛り上り、帰ってみれば午前様。
- 4月19日（木）：晴れ、於／グランドインターコンチネンタルホテル
第106回日本皮膚科学会総会会長招宴会。
 中野政男先生もお元気にご参加。
- 4月20～22日（金～日）：於／パシフィコ横浜
第106回日本皮膚科学会総会。
 神皮からも多数の会員が、講演者、座長として活躍された。
- 4月25日（水）：雨、於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
神皮会務ならびに会計における監査。
 滝澄清宏、杉本純一両監事をお招きして、会計監査のみならず、会務に関してもご意見を伺った。中には厳しいご指摘もあり、今後も気を入れてがんばらなければと思う。気付けば11時近い時間になっておりました。
糖尿病足病変カンファレンス。 於／ホテルキャメロットジャパン
 内科など他科の医師達との合同研究会の立ち上げ会。袋常任幹事が皮膚科代表として講演を引き受けてくださり、まだはっきりした展望はなく、しばらくは様子見。
- 5月10日（木）：雨、於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
 「足の健康チェック」打ち合わせ会
 栗原会長の「皮膚科医が足を診よう」構想が、今回の会議でかなり具体的にまとまってきた。山田裕道副委員長の下、浅井寿子、大澤純子、山川有子先生達からなるプロジェクトチームもでき、実際の活動がいよいよ動き出した。
- 5月12日（土）：晴れ、於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
常任幹事会。
 向井常任幹事が東邦大学の皮膚科教授にご就任されたため、後任として米元康蔵先生のご就任を確認したほか、124回例会の最終チェック、総会に向けての準備など盛り沢山。
 足の病気チェックも具体性を帯びてきた。
- 5月19・20日（土・日）：快晴、於／広島国際会議場
日本臨床皮膚科医会総会・学術大会。
 19日夜は、参加した有志で集まり神皮大宴会。とりはお約束のお好み焼きでめる。20日の高須先生のアンケート結果報告の発表も、これまでにないデータとして、製薬会社からもオファーが来たほど。高須先生ご苦労様でした。
- 5月25日（金）：7月1日の総会、124回例会案内発送に向けて最終準備に入る。
 瀬尾さんいつもお世話になります。
- 5月26日（土）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急

第6回JDC開催。担当幹事村上富美子先生、参加者51名。

ますます、意気軒昂のご様子。

- 5月31日(木) : 雷雨、於/横浜ロイヤルパークホテル
田中忠一前神奈川県医師会会長に感謝する会。
国会議員、知事をはじめ政治家も多数出席。にもかかわらず、医療崩壊の声が聞こえる今日この頃、総合診療科の創設構想など、皮膚科には逆風も。
- 6月5日(火) : 晴れ、於/妙蓮寺斎場
故江川二郎先生のお通夜に参列。ご冥福をお祈りする。
- 6月13日(水) : 総会議長を佐藤龍男先生に依頼。ご快諾をいただく。12月例会に関して、ベーリンガー来訪。講師派遣依頼状まで作成してくれるとのこと。助かる！
「足の健康チェック」支援打ち合わせにヤンセン来訪。ワーキンググループの活躍で、計画が順調に進行中との由。総会に使用するパワーポイントの作成に入る。
- 6月24日(日) : 総会資料、パワーポイント作成の最終段階に入る。初めて切り盛りする総会。見直すたびに、資料に不備や間違いが見つかり、焦る。
- 6月27日(水) : 晴れ、於/横浜スカイビル
健保委員会。
国保中村洋先生、社保(泌尿器)北原敬二先生が審査員をご退任。新たに国保審査員に金丸哲山先生ご就任。歓送迎会を兼ね、委員会開催。健保Q&A等に備えて話し合う。
- 7月1日(日) : 曇り、於/関内新井ホール(共催:協和発酵)
第124回神奈川県皮膚科医会例会・総会。
「静脈血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)の予防と治療」自治医科大学 瀬尾憲正教授
「下肢血行障害(PDA)の病態と診断から治療」北関東循環器病院 熊倉久夫循環器部長
「下腿潰瘍:原因と治療」都立墨東病院 沢田泰之皮膚科部長
ミニレクチャー「乳児アトピー性皮膚炎の有病率と悪化因子」市大センター蒲原 毅
幹事長として始めて担当する総会に若干緊張気味であったが、さしたる支障もなく終わってほっとする。例会の方は、講師の先生方も力が入り(?)、予定を1時間もオーバー！
今後課題を残す形となった。懇親会は、東邦大学皮膚科教授になられた向井秀樹先生の祝賀会を兼ねて開かれ、皆で向井先生の今後のご活躍を祈念した。参加者:133名。
- 7月3日(火) : 向井教授主催アトピー性皮膚炎治療研究会に15万円寄付を手配。県医師会学術に生涯教育報告。
- 7月4日(水) : 雨、於/横浜エクセルホテル東急
企画委員会。
7月の例会・総会も無事終わり、12月に向けてまた準備が始まる。しかし、文殊の知恵、問題があってもいろんな解決策が出てくるものだ。
- 7月10日(火) : 袋 秀平在宅委員会委員長が、日本褥瘡学会評議員に決定したとの報あり。袋先生には仕事が増えて申し訳ないが、医会にとっても名誉なことだ。名誉ついでに、広島の日臨皮総会で高須博先生が報告した「疥癬に対するイベルメクチン使用状況に関する調査報告」に対して、日経メディカルから取材申込があったとの報告も届く。発表時には、座長から回収率が低いとの思わぬ苦言をいただいたが、他に例を見ない調査ということで、評価いただけるにはちゃんとアピールできている。学術・サーベイランス委員会の先生方も苦労した甲斐がありました。
- 8月23~28日 : 第9回感染症サーベイランス実施。もう2ヶ月早ければ、さぞかし麻疹の数が多い統計に

なったことだろう。

しかし、あの「麻疹騒動」がうそのように静まってしまった。熱しやすく冷めやすいお国柄？

8月29日（水）：10日以上続いた「猛暑日」もこの日久しぶりの雨でやっとクールダウン。そんな中、定方永吉先生の訃報が届く、合掌。

8月30日（木）：曇り、於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
編集委員会。

「神皮15号」の編集方針の具体的な内容が話し合われ、ほぼ構成が決まる。今号も楽しいものになりそうだ。

9月13日（木）：曇り、於／ホテルキャメロット・ジャパン
在宅医療研究会。

今年も講師をお願いした真田弘美先生。ご自身、年1度ご自分を振り返る、いい機会にされておられるとおっしゃっていましたが、今年もますますパワーアップ！ 参加者も年々増加して会場、食事などの手配も大変に。嬉しい悲鳴です。参加者数：医師50名、コメディカル140名、計190名（大入り袋！）。

9月22日（土）：長島典安幹事の突然の訃報が入る。21日にお亡くなりになられたとのこと。合掌。

9月29日（土）：雨、於／ホテルキャメロットジャパン
産業医委員会。

主に、今後の活動の方向について話し合われたが、やはり皮膚科は皮膚科の目で貢献できる産業医活動に入っていけることがベストではあるが、現行の制度では厳しいであろう。職業性皮膚疾患などの掘り起しから地道に重ねていくしか無さそうである。

10月11日（木）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急
皮膚科医師サポートシステム立ち上げ準備会。

無事アルゼンチンの世界皮膚科学会から帰られた増田先生とシステムを中心となって推進している野村先生を中心に最終的な立ち上げのための協議が行われた。野村先生の才覚におんぶに抱っこでスタートすることになりそうだが、軌道に乗れば、働きたい方、求む方どちらにとっても有益なシステムになることが期待される。

10月13日（土）：曇り、於／ホテルモントレ横浜
常任幹事会。

秋の結婚式シーズンを忘れて会場の手配が遅れたが、なんとか確保できて開催。懸案の「医師サポートシステム」についての話し合いでは慎重論も出され、なかなか新しいことを始めるのも大変である。

10月15日（月）：平成20～21年度幹事候補リストアップをワーキンググループに指示。月日の経つのは本当に早い！

10月18日（木）：125回例会担当幹事大倉先生から、プログラム最終案がメール添付で届く。一部を手直しして返信。

10月25日（木）：晴れ、於／崎陽軒
学術サーベイランス委員会。

米元新委員長になってからの初開催。基本的にはこれまでを踏襲することで合意。

11月4日（日）：快晴、於／大さん橋ホール

皮膚の日イベント。今年は赤レンガ倉庫から大さん橋ホールに会場を移し、より多くの参加者を迎えて開催。いつもながら野村采配に感服。また、休日にもかかわらず、お手伝いいただいたメーカー様、ならびに野村先生のご主人にも感謝感謝！ 来年ははまぎんホー

ルで、小林誠一郎先生が主に担当されることに決まる。参加者536名、相談者41名。

11月17日（土）：快晴

第7回JDC開催。岡村理栄子先生をお迎えして「おしゃれ障害について～皮膚科医が学校に行って教えさせられたこと」と題してのご講演があった由。参加者数31名。

11月23日（金・祝）：快晴、於／コクヨホール

日臨皮三支部合同学術大会。神奈川担当最後の学術集会。金丸支部長始め役員の先生方お疲れ様でした。

褥瘡学会共同研究打ち合わせ。褥瘡学会、真田教授より医会に在宅患者の褥瘡調査委託研究への協力要請があり、詳細を協議するため日臨皮後、品川において会議を行う。

11月28日（水）：晴れ、於／ホテルニューグランド

健保委員会。健保Q&Aについての検討、来年4月改定への準備など話し合う。Q&Aの内容が担当幹事から委員長に届いておらずごたついたが、なんとか会議に間に合う。今後のためにも、担当マニュアルを改訂する。

12月2日（日）：晴れ、於／関内新井ホール（共催：日本ベーリンガー・インゲルハイム）

第125回神奈川県皮膚科医会例会。

「発汗と交感神経活動、およびその異常－多汗症、無汗症とその交感神経性メカニズム」岩瀬敏 愛知医大第2生理教授

「異汗性湿疹は汗と関係あるのか？ 掌蹠多汗症の治療は？」横関博雄 東京医科歯科大学皮膚科教授

「手掌多汗症における胸部交感神経節焼灼術の実際」井上隼人 北里大学呼吸器外科准教授
意外と皆さん多汗症の治療に困っておられるのか、参加者多数。イオントフォレーシスの実演や、交感神経の焼灼術の映像を見せていただき納得。好評な会でした。参加者144名。

12月3日（月）：忘れぬうちに、県医師会高橋様へ研修報告。

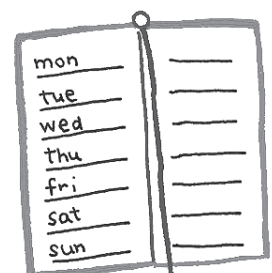
12月5日（水）：快晴、於／横浜エクセルホテル東急

第126回神奈川県皮膚科医会学術講演会準備会（企画委員会）。徐々に規制が強くなり、委員会の開催も窮屈になってきた。試みに企画委員会は例会の準備会として行われる形式になった。

12月18日（火）：先日の企画委員会で130回（21年7月）例会担当に推挙された杉田泰之先生、やはり132回（22年3月）例会担当に推挙された天野隆文先生に承諾を求めるメールを配信。お2人とも快諾。「例会担当のしおり」を送る。

12月28日（金）：曇り

仕事納め。忘年会に明け暮れ、いったいいくつ年を忘れたことか……。何か積み残しはないかと気になるが、大過なく神皮の活動を締めくくることができて、ともかくほっとする。来年はどんな年になるのか？ 何はともあれ皆さん、来年も神皮を楽しみましょう！



サーベイランス委員会だより

向井秀樹、米元康蔵

●第6回神奈川県皮膚病サーベイランス（補遺）

第6回神奈川県皮膚病サーベイランスは、平成18年2月13日（月）～18日（土）のうちの5日間に実施しました。今回の定点は、図1のごとく31施設から集計用紙が送られてきました。お忙しいところお送り頂き感謝しております。第5回以降に参加していただいたのは、袋 秀平先生（港南区）、川口博史先生（金沢区）、高橋泰英先生（中区）、天野隆文先生（逗子市）、大木 和先生（相模原市）の5名です。新しく部長や医長になられた朝比奈昭彦先生（国立病院機構相模原）および松永 剛先生（横浜市立みなと赤十字）には、引き続き参加していただきました。

図1. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの定点
平成18年2月に実施しました。定点数は以下の31定点です。

(1)病院（9施設）
横須賀共済、社保横浜中央、国立病院機構相模原、けいゆう、横浜市立みなと赤十字、横浜労災、国際親善総合、横浜市民、市立川崎

(2)開業 横浜（8施設）
野村有子（神奈川区）、浅井俊弥（保土ヶ谷区）、増田智栄子（泉区）、岩井雅彦（青葉区）、伊東文行（都筑区）、袋 秀平（港南区）、川口博史（金沢区）、高橋泰英（中区）

開業 県下（14施設）
菅野聖逸、望月明子（川崎市）、金丸哲山（横須賀市）、武沼永治（藤沢市）、生野重明（大和市）、田辺俊英、大木 和（相模原市）、林 正幸（厚木市）、米元康蔵（海老名市）、栗原誠一（平塚市）、加藤禮三（伊勢原市）、日下部芳志・戸澤孝之（小田原市）、天野隆文（逗子市）

表1. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（性別）

	小計	男計	女計	男/女	定点毎(31)	
①単純ヘルペス（外陰除く）	119	47	72	0.65	3.8	④
②外陰ヘルペス	8	4	4	1.00	0.3	
③カポジー水痘様発疹	13	7	6	1.17	0.4	
④水痘	11	7	4	1.75	0.4	
⑤帯状疱疹	226	85	141	0.60	7.3	②
⑥手足口病	1	0	1	0.00	0.0	
⑦尖圭コンジローマ	10	9	1	9.00	0.3	
⑧尋常性疣贅	1079	486	593	0.82	34.8	①
⑨青年性扁平疣贅	27	6	21	0.29	0.9	
⑩伝染性軟属腫	191	106	85	1.25	6.2	③
⑪風疹	1	1	0	0.00	0.0	
⑫麻疹	0	0	0	0.00	0.0	
⑬伝染性紅斑	6	1	5	0.20	0.2	
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	0	0	0	0.00	0.0	
⑮伝染性膿痂疹	73	35	38	0.92	2.4	⑤
⑯黄ブ球菌性皮膚熱傷様症候群	0	0	0	0.00	0.0	
⑰疥癬	10	4	6	0.67	0.3	
角質増殖型疥癬	0	0	0	0.00	0.0	
⑱毛ジラミ症	0	0	0	0.00	0.0	
⑲頭ジラミ症	16	4	12	0.33	0.5	
⑳梅毒（不顕性を含む）	5	4	1	4.00	0.2	
計	1796	806	990	0.81	57.9	

表2. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（年齢別）

疾患/年齢	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	小計
①単純ヘルペス（外陰除く）	5	1	4	2	24	25	14	12	15	17	119
②外陰ヘルペス	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	8
③カボジ－水痘様発疹症	0	0	1	0	7	5	0	0	0	0	13
④水痘	1	7	0	1	0	2	0	0	0	0	11
⑤帯状疱疹	2	3	4	6	18	11	4	35	57	86	226
⑥手足口病	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
⑦尖圭コンジローマ	0	0	0	1	2	2	2	2	1	0	10
⑧尋常性疣贅	36	198	144	65	124	177	123	93	64	55	1079
⑨青年性扁平疣贅	0	0	1	0	6	6	3	6	3	2	27
⑩伝染性軟属腫	92	88	6	0	0	2	3	0	0	0	191
⑪風疹	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
⑫麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑬伝染性紅斑	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	6
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑮伝染性膿痂疹	28	18	3	0	5	2	6	4	0	7	73
⑯黄ブ球菌性皮膚熱傷様症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑰疥癬	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4	10
角質増殖型疥癬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑱モジラミ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲頭ジラミ症	2	13	0	0	0	1	0	0	0	0	16
⑳梅毒（不顕性を含む）	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	5
計	166	330	164	75	194	236	157	154	146	174	1796

疾患別の集計結果（表1）をみると、最も多かったのが尋常性疣贅であり、次が帯状疱疹、伝染性軟属腫、外陰部を除く単純ヘルペス、伝染性膿痂疹の順である。この傾向は過去の第4回分をまとめて第21回日本臨床皮膚科医会三支部合同学術集会で報告した冬の結果とまったく同じである。一方、夏は尋常性疣贅、伝染性膿痂疹、伝染性軟属腫、帯状疱疹、単純ヘルペスの順であり、夏と冬の違いが再確認された。性別からみると尖圭コンジローマは圧倒的に男性に多く、水痘や伝染性軟属腫はやや男性に多くみられた。一方、伝染性紅斑、青年性扁平疣贅や頭ジラミ症は圧倒的に女性が多い結果であった。例数が少なく今後の検討課題の一つにしたい。

年齢別の集計結果は表2のごとくである。単純ヘルペスをみると、20歳以降の成人期の疾患といえる。20～30歳代にピークがあるが、40歳以降も平均してみられる。帯状疱疹は、やはり中高年に多い疾患である。70歳以降が全体の38%と最も多く、60歳代25%および50歳代15%となり、およそ8割の患者数がこの年齢に分布している。加齢に伴う抗体価の低下が指摘されている。アメリカFDAがすでに開始しているワクチンの予防投与を、この日本でも考える時期ではないだろうか。遊びや仕事に充実している20～30歳代に、小さなピークがみられる。一方、40歳代は4例と最も少ない。今回だけの出来事なのか、今後の検討課題の二つ目にしたい。

皮膚病サーベイランスも回を重ね8回目を平成19年2月に行った。集計結果を徒然なるままに眺めていると、それなりに夏と冬の面白いデータに気づく。見本となっている兵庫県の皮膚病サーベイランスの結果と比較しても大きな流れに違いはなく、新しいデータを発信できるかもしれない。今後も集計を続けていきたい。お忙しい診療の片手間に雑用を増やし大変申し訳ありませんが、定点になられている先生方には引き続きご協力をお願いしたい。

第4回までご協力頂いた滝沢清宏先生（西区）、杉本純一先生（保土ヶ谷区）、荻谷英郎先生（緑区）、内山光明先生（磯子区）と佐藤龍男先生（川崎市）の開業医の先生方、そして福永有希先生（国立病院機構相模原）、岡澤ひろみ先生（横浜市立みなと赤十字）と安藤巖夫先生（帝京溝口）の勤務医の先生方にはこの場で感謝申し上げます。

現在サーベイランス委員会が行っている作業は、畑康樹先生（済生会神奈川）が責任者の“内服剤で難治な

爪白癬症に対する治療法の検討”が実施されています。さらに疥癬の治療薬イベルメクチンに関するアンケート調査を会員全員に配布して、集計結果を昨年5月に広島で開催された日本臨床皮膚科学会に報告しました。充実した委員会メンバーによっていろいろな企画を今後も実施していきたいと考えております。是非ともご協力のほど重ねてお願い申し上げます。(向井秀樹)

●学術サーベイランス委員会

このたび急遽、向井秀樹先生の後任としてこの委員会の委員長という肩書きをいただきました。何をどうやって行ったらよいものか正直なところ見当が付きませんが、会員の皆様のご協力を頂きながら医会として意義のある委員会運営をして行きたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

・委員会の行事報告

▽定期感染症サーベイランス（第9回）実施 平成19年7月23日～7月28日

▽学術サーベイランス委員会開催 平成19年10月25日

今回の感染症サーベイ結果報告

今後の委員会継続の確認

サーベイランス定点施設の確認

▽次回の感染症サーベイランス実施予定 平成20年2月4日～2月9日

(米元康蔵)

委員会報告

Joy Derma Club だより

村上富美子、大沼すみ

●第6回 Joy Derma Club

日 時：平成19年5月26日（土）18：00～

場 所：横浜エクセルホテル東急

共 催：サノフィ・アベンティス株式会社

講演参加者：51名

プログラム

1. 「抗ヒスタミン薬アレグラの最近の話題」 サノフィ・アベンティス株式会社
2. 皮膚科医師サポートセンター～女医支援システム～について 野村有子先生（野村皮膚科医院 院長）
神奈川県皮膚科医会で行った女医支援システムに対するアンケート結果について報告がありました。支援システムを希望する意見が多く、病児保育や緊急時のベビーシッターの希望が多く寄せられていました。
3. 講演1：「光線過敏症の基礎と臨床～私の経験した症例を中心に～」 松尾聿朗先生（左門町皮膚科 副院長）
可視光線から赤外線、紫外線の発見された歴史から、光線過敏症を越す代表的疾患の臨床とそのメカニズムについてのお話でした。骨髄性プロトポルフィリン症（EPP）と晩発性皮膚ポルフィリン症（PCT）の臨床や外来ですぐできる検査法の話、種痘様水痘症、色素性乾皮症、光毒性、光アレルギー性のメカニズムの違いや

後天性日光過敏症の薬剤や植物についてでした。日焼け止めはSPF15あれば充分であること、10歳までの紫外線予防が大切であるとのことでした。

4. 講演2：「シミの診断と治療～美白剤を中心に～」 溝口昌子先生（聖マリアンナ医科大学 名誉教授）

前半は後天性の色素斑である肝斑、老人性色素斑、対称性真皮メラノサイトーシスの臨床と診断、治療法についてお話があり、後半は最近の美白剤についてメカニズムと実際の効果、今後の展望についてお話がありました。老人性色素斑や対称性真皮メラノサイトーシスはQスイッチレーザーが有効であり、肝斑は増悪させるので美白剤による治療がよいとのことでした。美白剤も2～3ヶ月使用し改善がなければ、メラノサイトの機能抑制メカニズムの異なる美白剤の使用や併用により効果があるとのことでした。

5. 懇親会

推して知るべし、大変にぎやかな楽しい会でした。

(担当：村上富美子)

●第7回 Joy Derma Club セミナー

日 時：平成19年11月17日(土) 18:00～

場 所：ブリーズベイホテル「風待」

共 催：神奈川県皮膚科医会、常盤薬品工業株式会社

参 加 者：神奈川県皮膚科医会会員の女医30名

プログラム

1. 「ケミカルピーリングとホームケアについて」 常盤薬品工業株式会社

ケミカルピーリングの手順と方法、またその後のセルニューシリーズを用いたホームケアについて紹介されました。

2. 「皮膚科医師サポートシステムについての報告」 野村有子先生（野村皮膚科医院）

働きたい女医と人材を求めている女医との橋渡しをするために、登録システムを立ち上げられました。

3. 「おしゃれ障害について～皮膚科医が学校に行って教えさせられたこと」

岡村理栄子先生（岡村皮フ科医院）

小学生から高校生までの、化粧や毛髪の脱色やむだ毛の処理などによるトラブルについてと、ご自身が学校に出向かれて子供たちに講演されている活動について発表されました。

◎第8回は平成20年2月に「医療トラブル対策」を、第9回は平成20年4月に「皮膚テストと化粧品」をテーマにセミナーを開催予定です。たくさんの女医の皆様の参加をお待ちしております。

(担当：大沼すみ)

在宅医療委員会だより

山川有子、山田裕道

●第16回神奈川県皮膚科医会在宅医療勉強会

日時：平成19年9月13日（土）19：00～

会場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：医師50名、コメディカル140名：計190名

共催：興和創薬株式会社

講演テーマならびに講師：「褥瘡対策最前線」：東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
老年看護学／創傷看護学分野教授
真田弘美先生

講演内容

真田先生は今春のフロリダにおける学会およびOrland Regional Medical Centerにおける見学、ヨーロッパの褥瘡学会などから褥瘡、感染創の管理などについて新たな知見を見出されたそうです。その最新の情報として

1. NPUAP（アメリカの褥瘡諮問委員会）の新しい分類としてDTI（Deep tissue injury）
 2. 徹底的な除圧
 3. 褥瘡ケアのパラダイムシフト
 4. 抗菌剤について
- が挙げられるとのことでした。

1. NPUAPが2007年に、褥瘡の進展様式には次の2通りがあることを示した

- ①DTI：褥瘡は元々深いものがある。骨突出に一致しないサイズの大きな紅斑。すでに初期から深部に損傷がある場合で、深部組織のズレや感染も重要。エコーにて炎症性浮腫がない場合はdebridementは不要であり、炎症性浮腫がある場合は筋膜の壊死があるためdebridementを必要とする。
- ②徐々に表層から深部組織へ波及していくタイプ。

2. 徹底的な除圧

褥瘡には圧力が12、剪断力が3、湿潤が4、栄養が4の割合で関連するといわれ、特に徹底的な除圧が重要である。その徹底的な除圧のため、体を沈め、身体の凹凸に対する順応性を高めることで接触面積を拡大させ、さらに圧勾配や接触領域を変化させることにより体圧分散を図る。Nexusという体圧分散寝具は急性期からリハビリまで長く使用できる点で優れている。

3. 褥瘡予防のパラダイムシフト（常識をかえるということ）

血流を回復するだけでなく、血流量を増加させることが必要である。圧切り替えの椅子クッションが開発されている。

4. 感染について

感染は腫脹、疼痛、熱感、発赤という4兆候と膿から判断しているものに、silent infectionがある。これはCritical colonizationともいい、創感染に移行しそうな状態で感染兆候はないが抗菌剤を使うと治癒速度が上昇するなど、臨床的に改善が見られる状態。このCritical colonizationのアセスメントポイントはNERDS（nonhealing wound, exudative wound, wet and red bleeding wound, debris, smell）で、抗生剤の全身投与は

不要でありゲーベン、ヨード、銀含有外用剤などが有用である。しかし抗菌剤では対処できない深部組織の感染のアセスメントポイントSTONES (size is bigger, tempreture increased, probes to or exposed bones, new area of break down, exudate erythema and edema, smells) では抗生物質の全身投与が必要である。浸出液がある場合はドレッシング材の選び方に注意が必要で、VAC陰圧による治療も有効である。

真田先生のご講演は、毎年毎年、進歩され、本当に素晴らしいの一言です。医師、コメディカルの多くの参加があり、今年も非常にたくさんの収穫を手にし、明日からの在宅診療に役立たせていこうと皆が思ったに違いありません。真田先生に心から感謝申し上げますとともに、今後の真田先生の更なるご発展とご活躍をお祈りしております。

(文責：山川有子)

●第2回神奈川フットケア研究会報告

日 時：平成19年1月18日(木) 19:00～

会 場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：会員66名、コメディカル83名：計149名

共 催：大正富山医薬品(株)

講演テーマならびに講師：「糖尿病フットケアとチーム医療」

昭和大学藤が丘病院皮膚科教授 末木博彦先生

「シリーズ 爪のケア② 爪白癬は外用療法でも治る！」

横浜市立大学医学部皮膚科学名誉教授 中嶋 弘先生

足のイボ、タコ、ウオノメ、爪の変形・混濁、陥入爪、足底の角化、糖尿病や慢性関節リウマチによる足の潰瘍などは、皮膚疾患にもかかわらず、皮膚科以外の診療科や場合によっては医師、看護師の免許のない者までもが関わりを持ち始めています。そこで、われわれ皮膚科医ももう一度足元から見直し(診直し)、皮膚全体からフットケアを考えるため、皮膚科関連のコメディカルと一緒に勉強しようということになり、昨年から在宅医療委員会主催で神奈川フットケア研究会を立ち上げました。

今回は、糖尿病と皮膚において第一人者でいらっしゃる末木博彦教授に「糖尿病フットケアとチーム医療」と題して、糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽のリスク評価、潰瘍以外の皮膚病変、履物の作製、患者教育、チーム医療の重要性などを講演していただきました。また「シリーズ 爪のケア②」として白癬における第一人者でいらっしゃる中嶋弘名誉教授に「爪白癬は外用療法でも治る！」と題して、ご自身の爪白癬の外用治療経験を多数の経過写真とともに講演して戴きました。

県皮膚科医会の会員の先生が66人、コメディカルの皆様が83人で、合計149人の参加があり、広い会場もほぼ満席となり盛況のうちに終了しました。

講演1 糖尿病フットケアチームとチーム医療

昭和大学藤が丘病院皮膚科 末木博彦

糖尿病フットケアのポイントは糖尿病性潰瘍・壊疽のリスク評価、加重集中を防ぐ適切な履物の作製、潰瘍・壊疽・感染の契機となりうる皮膚と爪の非潰瘍性病変の治療、患者教育に集約される。

1) 糖尿病性潰瘍・壊疽のリスク評価

糖尿病の病歴、治療歴、糖尿病コントロールの状況、合併症の有無、職業、家族や介護者による生活支援状況、飲酒、喫煙歴、運動習慣などを問診し、専用フォームに記録することが望ましい。糖尿病歴10年以上、

コントロール不良（HbA1c 7.0%以上）、糖尿病合併症、特に腎症のため透析中の患者、糖尿病性潰瘍・壊疽の既往がある患者、男性独居患者、喫煙者は糖尿病性潰瘍・壊疽のハイリスク患者である。血流の評価は下肢血圧／上肢血圧比（ABI）あるいはレーザードップラーを用いた皮膚還流圧（SPP）測定による。後者は、動脈壁石灰化の影響を受けない点で優れている。神経障害の評価はしびれ感、知覚低下、疼痛、チクチク感などの自覚症状の問診に加え、アキレス腱反射、128ヘルツ音叉による振動覚検査、10 gモノフィラメントによる知覚検査による。

2) 加重集中を防ぐ履物の作製

神経障害は、一部の筋肉の委縮から足の変形を来し、その部の加重集中をもたらす。加重集中部には鶏眼、胼胝を生じ、潰瘍形成に発展することがある。足の変形に合わせた柔らかい素材の中敷き（足底板：インソール）を作製する。足底板や矯正靴には健康保険が適応される。すでに糖尿病性潰瘍を形成している場合は僅か数歩でも免荷（加重の分散）を行わずに歩行すると、創傷治癒を阻害する。このため、室内歩行でも免荷足底板を装着した履物が必須である。

3) 皮膚と爪の非潰瘍性病変の治療

胼胝、鶏眼、足白癬、爪白癬、厚硬爪甲、陥入爪の治療は通常の皮膚科診療と同一である。血流改善目的の足浴、爪切り、胼胝・鶏眼削り、軟膏処置、創傷処置などは医師の指示、管理下に看護師も従事することができる。

4) 患者教育

糖尿病コントロール、禁煙、日常の足の点検を中心とした教育を行う。

1)～4)の項目は、キーパーソンとなる専門医を中心に関連科の医師、看護師、靴の装具士、検査技師などが医療チームを作り、効率的に取り組む必要がある。

講演2 爪白癬は外用療法でも治る！

横浜市立大学医学部皮膚科学 中嶋 弘

爪白癬の治療は、教科書的には内服療法とされ、外用療法は無効とされている。そこで、難治と考えられてきた肥厚型爪白癬を外用療法で完治させ得た一例を示す。次に、外用療法が一次選択と言われる比較的稀な白色表在型爪白癬（SWO）を、某高齢者施設の多発例から検討し、外用療法の有用性、特に表面を削った後の外用の有効性を示す。外用療法は、経験的にはSWO、乳幼児、成人、特に女性の指爪白癬の順に有効で、難治の趾爪白癬にも有用であった。それら治療のコツを開示し、爪切りの大切さについても説明する。なお、演者は内服療法と外用療法の併用を最善と考えているが、爪白癬は高齢者に多く、コストや薬剤相互作用などの副作用を考えると内服療法の恩恵に与えられるものは必ずしも多くない。外用療法の意義は予想以上に大きいと考える。

(文責：山田裕道)

編集委員会だより

川口博史

神皮15号は、3月2日に無事発行することができました。14号は医会の40周年記念号でしたが、今年は通常の体裁であります。編集委員のメンバーは昨年とかわらず気心の知れたメンバーで、昨年の8月30日に第1回、今年の1月24日に第2回の会合を開き、発行に向けて準備してきました。今年も各方面の先生方から原稿を賜り、まことに有り難うございます。会員には多芸多趣味の先生方が多くネタには困りませんが、まだまだ埋もれている人材を発掘していきたいと思っておりますので、我こそはという先生！ 自薦他薦を問いませんので編集委員に情報提供してください。また、各地域の医会で行われている活発な活動を記録していく場としてもご活用頂きたいので、合わせてよろしく願いいたします。

(編集委員：相川洋介、浅井俊弥、岡史子、小野秀貴、河原由恵、馬場直子、宮本秀明、山本修、川口博史)

特別付録



この1年は魚拓サイズはなし。でも良い日なみにはこのような魚を釣ることもできました。
上：メジマグロ
右：オニカサゴ



学校保健委員会だより

武沼永治

- 平成19年度日本臨床皮膚科医会学校保健委員会、都道府県学校保健担当者合同会議
平成19年5月20日（広島国際会議場）出席。
- 平成19年度日本臨床皮膚科医会第1回学校保健委員会
平成19年6月24日出席。
- 神奈川県医師会学校医部会第1回幹事会
平成19年7月11日出席。
皮膚科関連議題：平成18年度学校、地域保健連携事業報告について。
- 神奈川県医師会学校医部会、第1回委託事業推進委員会
平成19年9月11日出席。
皮膚科関連議題：平成18年度文部科学省委嘱事業学校、地域保健連携推進事業（平塚市）報告及び平成19年度予算について。
平成19年度厚木愛甲地区専門校医（相談医）事業推進委員会、第1回（5月15日）報告、第2回（7月10日）報告。
- 日本臨床皮膚科医会（日臨皮）学校保健委員会作成の健康教育教材（2007年度）として、下記のタイトルのCDがあります。必要な時にご連絡下さい。
 - 1) 「アトピー性皮膚炎」学校生活における管理と指導
 - 2) 「おしゃれ障害」きれいになりたいから始まる健康障害
 - 3) 「紫外線と皮膚」学校生活における指導と対策
 - 4) 「紫外線と皮膚」ホントは怖い紫外線
 - 5) 「学校保健における感染症」学校伝染病：疾患とその対応

産業医委員会だより

宋 寅傑

産業医委員会では平成19年9月29日（土）にホテルキャメロットジャパン（横浜駅西口）において第8回産業医委員会を開催いたしました。委員会委員ないしオブザーバー計10名が出席いたしました。

出席者：尾見徳弥・金丸哲山・鎌田英明・栗原誠一・齋藤蓉子・佐藤龍男・宋 寅傑・
新関寛二・日野治子・平松正浩

欠席者：足立 真・黒澤傳枝・望月明子・増田智栄子・毛利 忍・吉田秀也（敬称略）

議題に関しては下記の項目が検討されました。

1) “産業医についての意識調査”（平成18年）の結果報告

調査結果につきましては、文末の添付資料を御参照いただければ幸いです。

この調査結果は、第70回日本皮膚科学会東京支部学術大会（平成19年2月）と神皮第123回例会（平成19年3月）において副委員長の宋が発表いたしました。今回のような意識調査に関しては、今後も数年毎に医会の全会員を対象として実施するべきであり、調査時期による比較検討ができるよう、次回も基本的に今回と同様の質問項目を設定して、次回調査時期は3～4年後を目標にしようという提案がなされました。

2) 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会での発表について

第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会において、職業性皮膚疾患に関するワークショップが企画され、産業医科大学の戸倉新樹教授より副委員長の宋が発表の依頼を受けました。詳細は下記の通りです

開催日時：平成19年12月15日 9：00より（学会全体は14日から16日まで）

会 場：名古屋国際会議場

セッション名：ワークショップ1 “職業性皮膚疾患診療ガイドライン作成へ向けて”

オーガナイザー：中山秀夫先生、戸倉新樹先生

予定演者：1 演題20分の予定

- ① 労災病院グループにおける職業性皮膚疾患の研究事業への取り組み：谷田宗男先生（東北労災病院皮膚科）
- ② 勤務医・開業医からみた産業医活動：宋 寅傑（昭和大学横浜市北部病院皮膚科）
- ③ EBMの立場から見た職業性皮膚疾患：幸野 健先生（関西労災病院皮膚科）
- ④ 職業性皮膚疾患ネットワーク構築：織茂弘志先生（産業医科大学皮膚科）

発表内容としては、前述の“産業医についての意識調査”（平成18年）の結果報告を行い、また平成18年に医会会員の協力を得て職業性皮膚疾患の診療に関する実態調査を行うことを企画しながら質問項目が絞り込めず、未だ実施には至っていない、すなわち、我々は職業性皮膚疾患の何を明らかにしたいのかが未だに明確化できず議論の半ばであるという旨を報告する予定であり、発表内容について委員より承認されました。また、ここからさらに議論が進んで皮膚科医は何を目標として職業性皮膚疾患と接するべきなのかということが討論され、結局、皮膚科医は職業性皮膚疾患を単に診断して治療するだけでなく、その原因検索や発生の予防にまで係わって行くべきではないかという結論となりました。そしてそのためには、実際に企業の中に立ち入って疾患発生の現場がどうなっているのか確認したり、企業に直接指導を行ってゆかなければならないので、どうしても産業医の資格が必要になってくるのだという意見が新関委員から寄せられました。また、もし今後調査を行うならば、労災認定を受けた症例に絞って調査してみてもどうかという意見も出されました。これに関連し、開業医として労災のケースを扱う時の手続きがいまひとつわかりにくいという話題も出て、“労災制度”というものも産業医が理解すべき重要なテーマのひとつであることが示唆されました。

3) 第2回とそれ以降の産業医委員会勉強会について

平成20年1月31日（木）19時より、ホテルコスモ横浜において第2回産業医委員会勉強会の開催予定である旨、委員より承認されました。演者と演題は下記の通りです。

演者：産業医科大学皮膚科教授 戸倉新樹先生

演題：職業性皮膚疾患とそのネットワーク作り（50～60分間）

当日の時間的な流れと役割分担について相談し、決定しました。また、第3回勉強会は平成21年1月頃

に開催しようということが決定しました。勉強会のテーマに関してはいくつかの興味深い意見が提案され、第3回以降も“乞うご期待”というところです。

今回は時代の流れにより、初めてアルコール抜き、お茶と御弁当のみで委員会を開催いたしました。お陰で味覚的にはかなり寂しい気がしましたが、アルコールが入らないと議論に無駄がなく、ピントがずれない話し合いができるものだと気付かされ、委員会終了後には悔いなく議論ができたという一種爽快感のようなものが感じられました。帰宅後にアルコール付きの夕食をもう1回とりましたが、委員会自体は充実した内容であったと思われます。次回の産業医委員会は平成20年秋頃までに、おそらくまたお茶と御弁当のみで開催される見込みです。

なお、委員会開催後の10月下旬に“皮膚病診療”より宋宛てに原稿執筆依頼が参りました。“産業医活動の現状と展望”というタイトルでvol.30. No.5（平成20年5月）の“展望”欄に掲載される予定です。少々荷が重い感がありますが、平成18年の意識調査の結果や当産業医委員会で話し合われた内容を中心に、原稿を作成させていただく予定であります。

【添付資料】“産業医についての意識調査”結果

実施期間：平成18年3月～4月

調査対象：神奈川県皮膚科医会全会員521名

調査票回収数：282名分回収 回収率：54.1%

各質問項目に対する回答

“年齢”および“性別”

20歳代男性	1名	0.4%	20歳代女性	3名	1.1%
30歳代男性	14名	5.0%	30歳代女性	14名	5.0%
40歳代男性	44名	15.6%	40歳代女性	37名	13.1%
50歳代男性	61名	21.6%	50歳代女性	29名	10.3%
60歳代男性	27名	9.6%	60歳代女性	11名	3.9%
70歳以上男性	38名	13.5%	70歳以上女性	3名	1.1%
男性総数	185名	65.6%	女性総数	97名	34.4%

“主たる診療科について”

皮膚科単科	249名	88.3%
皮膚科と他科併科	13名	4.6%
他科単科	20名	7.1%

“勤務先について”

開業	182名	64.5%	大学病院勤務	30名	10.6%
一般病院勤務	49名	17.4%	医院勤務	13名	4.6%
上記以外の職場に勤務（癌センター、老健施設など）	6名	2.1%			
仕事をリタイアした	1名	0.4%	無回答	1名	0.4%

“勤務先の立地について”

住宅地	155名	55.0%	商業地域	112名	39.7%
-----	------	-------	------	------	-------

工業地域	6名	2.1%	農業地域	5名	1.8%
観光地、温泉地	2名	0.7%	無回答	6名	2.1%

“産業医の資格を取得しておられますか？”

すでに産業医の資格を取得している	20名	7.1%
現在資格申請中	1名	0.4%
取得できる状態だが取得の申請をしていない	3名	1.1%
取得のために活動中	7名	2.5%
以前産業医であったが、現在やめている	4名	1.4%
取得しておらず、取得のための活動もしていない	247名	87.6%

“産業医の資格ありと回答した20名に対して ー現在産業医として活動していますか？”

産業医として活動中	9名
産業医として活動していない	11名

“現在資格申請中、取得できる状態だが取得の申請をしていない、および、取得のために活動中と回答した計11名に対して ー今後産業医として活動の予定はありますか？”

予定あり	1名	予定なし	9名	未定	1名
------	----	------	----	----	----

“取得しておらず、取得のための活動もしていないと回答した247名に対して ー産業医の資格に関心がありますか？”

非常に関心あり	11名
少し関心あり	120名
関心なし	115名
無回答	1名

“取得しておらず、取得のための活動もしていないと回答した247名に対して ー産業医の資格取得ための具体的な方法についてご存知ですか？”

知っている	57名
知らない	185名
無回答	5名

“皮膚科医としてできる産業医活動にはどのようなものがあるとお考えですか？”

- 今後ひとりでも多くの皮膚科が産業医としての研鑽をつんで、皮膚科出身の産業医を増やしてゆく。
- 皮膚科専門校医の確立のために産業医の資格をもつ皮膚科医を増やす。
- 学校医の資格のためには産業医の資格があった方が有利である。
- 介護老人保健施設の責任者となるため、産業医の資格を取得した。
- 皮膚科が産業医となって職業性皮膚疾患全般、化学物質による皮膚障害、フットケア関連疾患の予防や職場指導、職場安全管理などに努める。
- 必ずしも産業医とならなくても職業性皮膚疾患、化学物質による皮膚障害などの診療を積極的に行い、場合によっては職場にも改善のための働きかけを行う。
- 直接産業医とならなくても皮膚疾患に関して積極的に産業医の相談にのる、など。

以 上

企画委員会だより

木花 光

当委員会は例会のテーマ、演者などを、例会担当幹事を中心に決定していますので、その成果は例会に参加していただくとわかる通りです。

今後の例会のテーマとして、第127回（平成20年7月）が「心と皮膚」、第128回（同年12月）が「口腔粘膜疾患」、第129回（21年3月）が「皮膚外傷」を予定しています。お楽しみに。

鬼も笑う来年の話までこのように決まっていますが、環境の変化により企画委員会を開催すること自体が一番厄介になってきました。なんとか開催できるよう日々頭を痛めております。どこかの国の首相のように、委員長職を突然放り出せるとスッキリできるのですが。

特別付録



オウムにはもてました。オウムの爪が鋭く、腕の傷が治るのに10日かかりました。AGAの人は帽子をかぶってないと危険です（オーストラリア、ゴールドコーストの郊外の山中にて）

広報委員会だより

野村有子

●皮膚の日

11月12日は、いい皮膚の日として日本記念日協会に登録され、医師を中心に皮膚に関する啓蒙活動が続けております。その一環として、平成19年も11月4日（日）に大さん橋ホールで、「いつまでも若い肌で～全身の皮膚をみなおそう～」をテーマにイベントを開催しました。サブテーマとして「もっと気軽に皮膚科へ」を掲げ、地域に根付いた皮膚科および皮膚科医を身近に感じていただけるような企画が盛りだくさんで、また最後には抽選会やサンプルのおみやげもあり、ご来場いただいた皆様にご満足いただけました。

日時：平成19年11月4日（日）13：00～16：00
会場：大さん橋ホール（大さん橋国際客船ターミナル2F）



プログラム

司会：野村有子（野村皮膚科医院）

I 開会のご挨拶 栗原誠一（神奈川県皮膚科医会会長）

II 講演1「あなたの皮膚の知識は間違っていないですか？」

講演者：小澤 明（東海大学皮膚科教授）

クイズ形式のとっても楽しくわかりやすいお話で、皮膚について正しい知識をご講演いただきました。最後には、小澤先生から聴衆へのプレゼントもあり、大変喜ばれました。

III 講演2「いつまでもみずみずしい肌を保つためにビューティエキスパートとして伝えたいこと」

講演者：大高博幸（ビューティエキスパート）

お肌を愛している大高氏ならではのお話で、ご自分の体験を交えて、美しくなるためのコツをお話しいただきました。

IV ～休憩～ 製品展示・紹介コーナーでの見学会

休憩タイムでは、ホワイトで展示されているスキンケア製品の商品説明会とミニレクチャータイムが開催され、大勢のお客様が熱心に説明を聞いており、大盛況でした。

*ミニレクチャータイム

①ダイワボウノイ株式会社

テーマ：アトピー性皮膚炎のかゆみ鎮静繊維「アレルクッチャー AD」について

講演者：檜垣誠吾（生活資材部製品課）

②株式会社たまき

テーマ：お洗濯からはじめるスキンケア！

～アレルギーテスト・使用テストで安全性証明～「アミノ酸生活」液体洗剤・柔軟剤

講演者：増田智栄子（いずみ野皮膚科院長）

③花王株式会社

テーマ：乾燥性敏感肌の方のためのスキンケア～365日、調子のいい肌のために～

講演者：吉田智保（学術担当）

④興和新薬株式会社

テーマ：リアルバオート麦配合～スキンケア製品「アデルマ」のご紹介

講演者：安川かおり（学術部）

⑤ユースキン製薬株式会社

テーマ：器械によるお肌診断とスキンケアのアドバイス

講演者：荻原ふみ、窪田理恵子（企画部マーケティング室）

V 講演3「さらなる美しい肌へ近道～パート3～ 若くて健康な肌を保つコツ」

講演者：溝口昌子（聖マリアンナ医科大学皮膚科名誉教授）

昨年に引き続き、皮膚のしくみとしみ・くすみ・しわのできるメカニズムとその予防法・治療法がわかりやすく説明されました。お話はとても楽しくて和やかな雰囲気でした。

VI 皮膚のトラブルQ&A コーナー

事前にイベントの応募時に「皮膚科医への質問」をあわせて募集していました。その中でも特に多かった乾燥肌・にきび・かゆみなどについて、司会の野村有子と川口博史が以下の先生方に質問をして、答えをもらいました。

担当の先生方：木花 光、望月明子、宮川俊一、袋 秀平

VII スペシャル記念 抽選会

ご講演いただいた大高博幸氏の著書「美は手から始まる——大高博幸の綺麗マジック」と司会の宇江佐りえさんより「リエッセンス オリジナル ハイバックキャミソール」が提供され、抽選で計7名の方にプレゼントされました。

VIII 閉会のご挨拶 金丸哲山（日本臨床皮膚科医会南関東山静支部長）

IX ～最後に～ スキンケア製品のサンプリング

また、会場入口近くにのぼり旗をたて、「お肌のトラブル相談コーナー」を開設しました。

相談医の先生方：原 尚道、相川洋介、井上奈津彦、尾作 文、黒澤傳枝、澤田秀一、戸澤孝之、矢口 厚、山川有子、山本 修

<会場担当の先生方>

鎌田英明、毛利 忍、松山 孝、蒲原 毅、金子佳世子、小林誠一郎、高橋さなみ

<参加者数>

来場者：536名

相談者：41名

<協賛：展示メーカー>（20社）

アクセース、岩城製薬、インテンデイス、エスト・コミュ、大島椿、花王、ケイセイ、興和新薬、ジョンソン&ジョンソン、スヴェンソン、ダイワノボウイ、たまき、常盤薬品、万有製薬、ファンケル、ポーラファル

マ、マードゥレクス、マルホ、持田ヘルスケア、ユースキン製薬

<協賛：おみやげサンプリングメーカー> (17社)

アクセース、井田両国堂、インテンディス、エスト・コミュ、興和新薬、資生堂、ゼリア新薬、常盤薬品、日本ロレアル、ファンケル、ポーラファルマ、マードゥレクス、マルホ、ミヨシ石鹸、ヤサカ産業、ユースキン製薬、ロート製薬

<賛助メーカー> (29社)

アステラス製薬、インテンディス、科研製薬、協和発酵工業、グラクソ・スミスクライン、クラシエ薬品、グラファラボラトリーズ、サノフィ・アベンティス、佐藤製薬、沢井製薬、塩野義製薬、シュERING・プラウ、第一三共、大正富山医薬品、大日本住友製薬、大鵬薬品工業、田辺三菱製薬、ツムラ、テイコクメディックス、鳥居薬品、日本臓器製薬日本ベーリンガーインゲルハイム、ノバルティスファーマ、萬有製薬、久光製薬、藤永製薬、ポーラファーマ、ミノファージェン製薬、ヤンセンファーマ

<労務提供メーカー> (20社) 30名

アステラス製薬、インテンディス、協和発酵工業、グラクソ・スミスクライン、サノフィ・アベンティス、佐藤製薬、塩野義製薬、シュERING・プラウ、第一三共、大正富山医薬品、大日本住友製薬、大鵬薬品工業、田辺三菱製薬、ツムラ、テイコクメディックス、鳥居薬品、日本ベーリンガーインゲルハイム、ノバルティスファーマ、マルホ、ヤンセンファーマ

<イベント案内掲載>

神奈川新聞、美的、定年時代、神静民報、@cosme (Web)、kirecom (Web)、Fe-MAIL (Web)、おは奥ネット (Web)、ウォーカープラス (Web)、Style WEB (Web)、エキサイト (Web)

今回も少しでも皮膚の日のことを多くの一般の方々に知ってほしいと思い、パンフレットを作成し、各病院や医院、薬局等に置いていただきました。また協賛メーカー・賛助メーカーをはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。おかげさまで、応募者数は、ハガキ・FAXでの応募370名、協賛メーカーさんへの招待状送付164名、Web上での応募に対する招待状送付80名となりました。大きな反響があり、イベントを楽しみにしてくださる方々が毎年増えてきて嬉しい限りです。

この場をお借りしまして、ご協力を頂きましたたくさんの先生方に深謝申し上げます。

さらに、イベントの企画・PRをご協力いただいたJ&Tプランニングの市川純子様、会場の運営にご協力いただいた横浜アーティスト様、労務提供をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

来年からは、小林誠一郎先生が皮膚の日イベント担当となります。これからも皆様のご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私が担当の4年間、本当にありがとうございました。

委員会報告

IT委員会だより

浅井俊弥

まずい。本年度も終わってしまう！ 最近、小さいものが見えなくなったり、無理がきかずに仕事がたまっていったりで、ちょっと、自己嫌悪ムード。さらに近頃は日曜も忙しく、家族にも見放されてきたようです。

特別付録

さて、IT委員会は、昨年度末の平成19年1月に「治験」との取り組みの一環として、日本医師会治験促進センターの山本 学様をお呼びし「臨床治験と地域の医会～ネットワーク作りと運用までのプロセス～」と題して、お話を伺いました。詳細はHPに掲載しておりますのでご覧いただければと思います。皮膚科関連の臨床治験に対応できる体制作りは、地域の医会としてひとつの社会貢献と考えていますので、是非とも進めていきたいのですが、なかなか進捗しません。また、昨年7月の例会の返信はがきに、治験にご協力いただけるかどうかのアンケートを載せさせていただきました。約30名の先生方から、参加できるとのご回答をいただきました。その後、詳細についてご連絡しなければならなかったのですが、まだ方向性が決まっておらず、ご案内が遅れているというのが現状です。個人的には治験の勉強のため、昨年秋から治験管理医師をやっていますが、書類が多く煩雑で、なかなか大変な業務だと再認識しています。毎年のことですが、来年度はガンバリ。



JIMPI BAND in 竹富島（平成19年2月）

●神奈川県皮膚科医会HPの管理

*皮膚病の話のコンテンツ

▽スギ花粉皮膚炎 —2月になるとまぶたがかさかさしませんか—/浅井俊弥（横浜市）平成19年2月

▽かいせん/林 正幸先生（厚木市）平成19年6月

▽かいせんパート2 —疥癬虫はシワが好き。虫の残した水尾を追い！—/吉住順子先生（東京都）平成19年8月

●第2回IT使用状況アンケート（平成18年8月）の結果（詳細はHPにあります）

*回収率 病院勤務医 64名（50施設）/141名（78施設）、45%（64%）

開業医 162名（151施設）/326名（322施設）、48%（47%）

・結果（図1、2）平成16年8月のアンケートと比較すると、開業ではデジカメが34%→46%、医院のHPが28%→42%、ダーモスコピーが15%→44%、電子カルテが8%→16%と増加が目立ちました。また、病院では、デジカメが41%→51%、ダーモスコピーが39%→72%、電子カルテが13%→23%と増加していました。

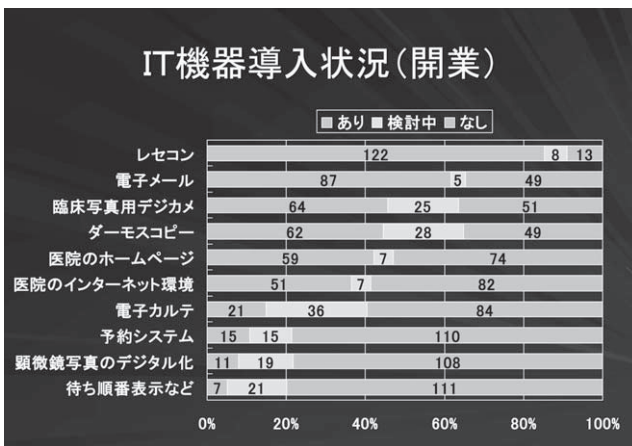


図1

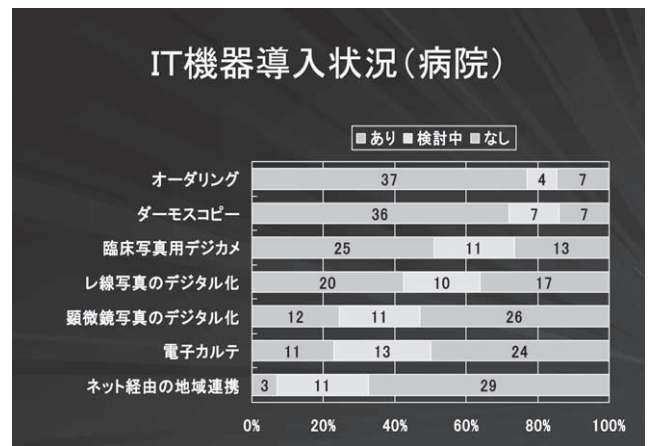


図2